

10月失業率 3.1%に悪化

総務省が1日発表した10月の完全失業率（季節調整値）は、前月比0.1ポイント上昇の3.1%で、2カ月ぶりに悪化した。完全失業者数は前年同月比51万人増の215万人で、9カ月連続の増加。新型コロナウイルスの感染拡大による雇用情勢への影響が依然、続いている。

厚生労働省が同日発表した10月の有効求人倍率（季節調整値）は1.04倍で、前月から0.01ポイント上昇。2019年4月以来、1年6カ月ぶりの改善となった。感染拡大で採用を控えていた企業の一部が、夏の「第2波」後にいったん状況が落ち着いたので受け、採用活動を再開したとみられる。

男女別の失業率は、男性が前月

コロナ、雇用への影響続く

比0.2ポイント悪化の3.4%、女性は前月と同じ2.7%。緊急事態宣言の影響で4月に597万人まで急増した休業者は170万人となった。

有効求人倍率は求職者1人当たりの求人数を示す。地域別で最も高かったのは福井県の1.49倍で、最も低いのは沖縄県の0.66倍だった。1倍を切ったのは神奈川県（0.75倍）、滋賀（0.81倍）など15道県だった。

企業から出された新規求人は78万8994人。前年同月比23.2%減と、10カ月連続で減少した。

田村憲久厚労相は1日の閣議後記者会見で「コロナ禍で厳しい状況が続いている。雇用対策に注力したい」と述べた。